

日本語の「のような」と中国語の列挙助詞について

馮 元

要旨

日本語においては、名詞と名詞を並べる際に、カテゴリー性を前提とする「や」とカテゴリー性を前提としない「と」を用いる。それに対して、中国語では、並列を表す“和”がカテゴリー性とかかわらないため、中国語において、カテゴリー性を表示する表現にはどういったものがあるのか検討する余地が残されている。また、日本語には、並列助詞の「や」以外に、並列要素の後に置いてカテゴリー性を表示する「のような」といった表現もある。本稿では、日本語において「のような」が表示するカテゴリー性を、中国語のどのような形式が担っているのかを観察していく。

キーワード：カテゴリー性 「のような」 列挙助詞

1 はじめに

これまで、物を並べ立てる表現については、日本語では、「と」「や」などの並列助詞の研究が主であった。中国語においても、並列表現については、「と」「や」と意味的に対応する“和”の研究が主であった。本稿では、「と」「や」のみならず、「…のような」のカテゴリー性に注目し、さらに対応する中国語の“…一类的”などの要素も視野に入れ、分析を進めていく。

「や」の場合、メンバーを例示することが目的であり、前提となっているカテゴリーについて、そこに所属するメンバーを挙げる。即ち、あるカテゴリーのメンバーを例示することで、そのカテゴリーの存在を示唆（暗示）するのである。

「のような」は「前接要素のようなカテゴリーが存在する」ということを示す。前提となる要素を列挙して、カテゴリーを表示（明示）するといえる。

日本語の場合、「や」という並列助詞はカテゴリーを暗示するが、中国語の場合、並列接続詞である“和”はカテゴリー性にかかわらない。こういった事実を踏まえ、本稿では、カテゴリーを明示する「AやBのよう」という日本語が中国語でどのように訳されるか確認し、中国語においてカテゴリー性の前提がどのように表現されるのか調査する。日本語の「のような」に関しては先行研究が存在するものの、中国語との対照は行われていない。この種の研究は、中国語を対象としたものでも数が限られる。本稿では、日本語の「のような」とそれに対応する中国語を軸に対照研究を行う。

中日対訳コーパスでの検索の結果、「AやBのよう」に対応して用いられる中国語の表現は次のようなものであることが明らかとなった。

I 一类/之类 19例中2例 (10.5%)

細工品が、目籠や、箆のような端物とよばれるものではなくて……
 如果竹制工艺品不是指竹篮、竹篾之类的零杂东西……

II 这样的/那样的 19例中8例 (42%)

サルトルやボヴォワールのような思想家や作家
 像萨特、玻包瓦尔那样的思想家作家

III 等/等等 19例中3例 (16%)

金閣は、永久に揺れうごいている風や水や焰のような材料で築かれたものかと思えた。
 金阁就好像是由永无定迹的风、水、火焰等材料铸成的。

IV φ 19例中6例 (31.5%)

神奈川県の相模原や厚木のように、自らインダストリアル、パークと称するものもあらわれてきている。
 如神奈川県的相模原和厚木，出现了工厂公园。

以上、コーパスから抽出した19の例文をI～IVに分けたが、これらの「AやBのよう」に対応する中国語の表現について、他の表現での訳出の可能性を検討する。その結果をまとめたのが次の表1である。

表1 「のよう」の中国語訳

	一类/之类	这样的/那样的	等/等等	φ	例の数
I	◎	○	○	×	2
II	○	◎	○	×	1
	△	◎	○	×	3
	×	◎	×	×	2
	○	◎	○	×	2
III	○	○	◎	×	2
	△	△	◎	×	1
IV	×	○	×	◎	1
	△	○	×	◎	1
	△	○	○	◎	2
	○	○	○	◎	2

表1の記号の意味を確認しておく。「◎」は実際に訳された表現である。また、「○」は言い換えることが可能な表現、「×」は不可能な表現である。「△」は言い換えることは可能であるが、ニュアンスが変わってしまう表現である。

収集した用例をこのように整理したところ、“一类/之类”に訳せる（置き換え可能である）のは19例中9例、“这样的/那样的”に訳せるのは18例、“等/等等”に訳せるのは15例であることが確認された。“一类/之类”に訳せる割合が最も低いのは、この表現固有のイメージが影響していると考えられる。“一类/之类”には、人を並列する際に用いると、マイナスのイメージが付与されるという性質がある。

中国語の“一类/之类”、“这样的/那样的”、“等/等等”は、いずれも列举助詞¹と呼ばれる。一方、中国語の列举助詞に関する研究はあまり進められていない。さらに、日本語との対照研究は管見の限り見られない。本稿では、これらの対応関係を明らかにする。

次に、中国語のこのような列举助詞が日本語でどのように訳されているのかを見ていく。

I 一类

（「2つ以上の名詞+“之类”）の形で、列举した事物と同類の事物を指し；…と…などのたぐい、のようなもの。

- (1) 她成天与镭、钚、铀之类放射性元素打交道。

彼女は毎日ラジウム、トリウム、ウランなどのような放射性元素とつきあっている。

(伊地知2002：2001)

一类

（名詞の後ろに用い）…といったような、といったたぐいの。

- (2) 字典一类的书叫工具书。

字典といったたぐいの書物は参考書と呼ぶ。

(伊地知2002：1748)

II 这样的

（「‘这样的’+名詞」「‘这样的’+数量詞+名詞」の形で連体修飾語に用いて、性状を示し）この（その）ような。

- (3) 你看大哥是这样的人吗？

兄貴をそんな人だと思っているのかね。

(伊地知2002：1969)

1 列举助詞というのは、列举されるものをまとめる、ある種のグループを示す助詞である。

III 等

(並列する複数の事物のうちの一部を2つ以上提示して他を省略する場合に最後の語の後に用い)…など、…などなど。 ≡ 等等

(4) 宋代著名诗人有陆游、王安石等。

宋代の有名な詩人には陸游・王安石などがいる。

(伊地知2002:275)

中国語の“一类”“这样的”“等”を見ると、明らかに“之类”“这样的”はカテゴリー性とかかわっており、並列されたメンバーが同じ「類」「カテゴリー」に属していることを表示している。但し、“等”は日本語の「など」と対応し、他のメンバーがあることを暗示するだけで、カテゴリーを表示することはない。

2 中国語における列挙助詞

まず、日本語と比較するために、中国語における列挙助詞に関する説明の妥当性を検討する。張(2001)は、それまで列挙助詞について研究した論文は1つもないと指摘し、4つのパターンに分けて列挙助詞について論じている。列挙助詞は、現在すでにあまり使われていないものを含め、“等、等等、云、云云、一类、之类、之流、者流、一流、什么的、啥的、的”の12種であるとされる。また、張(2001)では、列挙助詞というのは、列挙される語の後に置かれ、列挙関係を表すあるいは表すのを手伝う助詞であると述べられている。

徐(2012)は、“这样的”“那样的”も列挙助詞と見なし、張(2001)では12種とされていた列挙助詞を計14種とした。現代中国においては、一般に使われている列挙助詞として、“等、等等”、“一类、之类”、“什么的、啥的、的”、“这样的、那样的”という4つのタイプがあると考えられる。そのうち、“什么的、啥的、的”は話し言葉として使われるが、書き言葉としてあまり使われないため、本稿では、“等、等等”、“一类、之类”、“这样的、那样的”という3パターンを軸に検討する。

これらの列挙助詞にはどのような違いがあるのだろうか。まず、1節で述べたように、“一类、之类”、“这样的、那样的”はカテゴリーを表示するが、“等”はカテゴリーを表示しないという違いが挙げられる。また、列挙助詞同士が共起できるかどうかという点から見ると、“等”は“一类、之类”、“这样的、那样的”と共起できるが、“一类、之类”、“这样的、那样的”はお互いに共起できない。

(5) 不同的历史年代, 不同的国家, 都成了脱离实际、耽于幻想、主观主义等一类人物的代名词。

(黄2008:15)

(6) 诸如饮料、啤酒、食盐、卫生纸等之类。

(CCLコーパス)

- (7) 联合国调查报告说，在亚洲像曼谷、卡拉奇、达卡、雅加达以及马尼拉等这样的都市，每年扔掉的垃圾等于“吃”掉这些城市各自年财政预算的30%至50%，到本世纪末估计将要翻一番至二番。

(CCLコーパス)

- (8) 正是在这种大浪淘沙，人才辈出的年代里，才产生了像李白、杜甫、关汉卿、鲁迅等那样的文学巨星。

(CCLコーパス)

なぜこのような振る舞いを見せるのかということ、1節で述べたように、“等、等等”が「など」と対応し、“一类、之类”と“这样的、那样的”は「のような」と対応しているためであると考えられる。日本語においても、「などのような」のように「など」と「のような」が共起可能である。

- (9) でも、時々マクドナルドやケンタッキーなどのようなジャンクフードが無性に食べたくなる事があります。

(「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言)

“等”と“一类、之类”“这样的、那样的”が共起できるのは、二者の機能が異なるからである。“等”が示す機能は「一部列举」であるが、“一类、之类”と“这样的、那样的”が示す機能は「カテゴリーの表示」であると考えられる。

2.1 一类/之类

中日対訳コーパスで「AやBのよう」の「のよう」が“一类、之类”に訳されているのは以下の2例である。

- (10) a 大正十四年には、今日のようにパスやマイシン類のような結核の卓効薬はなかった。
b 在大正十四年的时候，我们现在用的PAS和霉菌抗素这类治结核病的特效药还没有出现。

(中日対訳コーパス：坊ちゃん)

- (11) a 細工品が、目籠や、策のような端物とよばれるものではなくて……
b 如果竹制工艺品不是指竹篮、竹篓之类的零杂东西……

(中日対訳コーパス：坊ちゃん)

張(2001)によると、“之类”も“一类”も、複数の並列要素の後にも単独の要素の後にも置ける。複数の名詞の後に置かれた場合には、同類の事物が列举しきれていない

ことを表すのに対し、1つの名詞の後に置かれた場合には、代表的な事物を挙げることを表す。張（2001）では以下の例文が挙げられている。

- (12) 他原期望那樟木箱里有点元宝金条之类的东西，最不济也该有些金银首饰。
 (13) 他们是同什么什么公司挂了钩，给人家到广州一类的地方接车去了。

(張2001：37)

張（2001）によると、“X之类”が連体修飾語だけでなく、さらに主語(例文14)、目的語(例文15)としても使えるのに対し、“X一类”は主語（例文16）、目的語（例文17）になることができず、連体修飾語としてしか使えない。

- (14) 就实际上说，中国旧思想的家族关系父子关系之类，其实早已崩溃。
 (15) 第二，以前的家庭中间，本来常有勃谿，到了新名词流行之后，便都改称“革命”，然而其实也仍是嫖钱至于相骂，要赌本至于相打之类，与觉醒者的改革，截然两途。
 (16) 古时，于外来物品，每加海字，如海榴，海梅花，海棠之类（？一类）。
 (17) 那时候学校里已经时兴安排听忆苦报告、吃忆苦饭、访贫问苦一类(的活动)。

(張2001：38)

黄（2008）も列挙助詞は言語学においてあまり重視されてこなかったと述べている。また、“之类”は列挙助詞の中で最も使われているものであるにもかかわらず、それまで体系的に研究されてこなかったとして、組み合わせ対象、文法機能、語彙規約、語用特徴などの角度から“之类”と“一类”について詳しく分析している。黄（2008）の内容は以下の表2、3、4のようにまとめられる。

表2 組み合わせ対象

特徴 類別	文法単位				構造形式		構成類別		内部関連		
	語彙素	単語	フレーズ	句	名詞が 1つ	名詞が 2つ以上	普通 名詞	固有 名詞	排列式	連接式	配合式
之类	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
一类	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

組み合わせ対象に関しては、二者間に差が見られない。

表3 文法機能

特徴 類別	助詞組み合わせ の機能		Xの構造機能			“X之类”和“X一类” という構造の機能			
	粘着	重ね	名詞	形容詞	動詞	主語	目的語	連体 修飾語	挿入
之类	+	-	+	+	+	+	+	+	+
一类	+	-	+	+	-	-	-	+	-

表3から分かるように、「動詞」「主語」「目的語」「挿入」といった項目に二者間の相違が見られる。以下、それぞれの例文を挙げる。

- (18) 新年中的竞赛游戏如打球、拔河 [之类], 在起初都有神秘的象征意义, 其胜负具有决定地区、家族或个人地位的意义。(动词性)

(黄2008: 17)

- (19) 焚衣野祭 [之类], 皆闾巷人之事也, 用之天子, 见礼乐坏甚。(作主语)

(黄2008: 18)

- (20) 早餐一般吃面包、牛奶、果汁、鸡蛋 [之类]; 午餐大多在外面吃, 几片三明治、一杯热咖啡和几只香蕉就行了。(作宾语)

(黄2008: 18)

- (21) 如果不以一个主题, 比如“继承法” [之类], 来排列整理的话, 那么检索就要浪费很多时间, 效率实在太低。

(黄2008: 21)

挿入というのは、“之类”が他の例示を表す語（たとえば“比如，如，象”）とともに文中に出現し、文の挿入成分として働くことである。挿入としての用法では、“X之类”の前後で読点により文のほかの成分と分けることが可能であり、加えてその部分を削除しても文が完成するという特徴が見られる。

また、“等”“等等”は重ねて使えるのに対し、“之类”と“一类”は重ねられないと指摘している。しかし、中国語では、列挙助詞“等”を重ねて“等等”とすることができるが、一般的にこのような重ねた形式は用いられない。従って、“之类”と“一类”に重ねた形式が存在しないというよりは、重ねることが可能な“等”のほうが有標であるということになる。“等”は、“等等”という重ねた形式としても使用可能であるという点で、日本語の「など」「などなど」と類似している。

表4 語彙意味

特徴 類別	語彙性質		語彙規約		
	一部列挙 (名詞が2つ以上)	選択列挙 (名詞が1つ)	概括式	隠喩式	転換式
之类	+	+	+	+	+
一类	+	+	+	+	-

表4でも“之类”と“一类”の差異は見受けられない。

黄(2008)のうち、もっとも有意義な指摘は語彙規約に関する分析であると考えられる。黄(2008)では、次のように述べられている。

就“之类”和“一类”前的多项式“X”的语义类别而言，一般来说，其中的各项都属于同一个或相关的语义范畴。

(黄2008:24)

(“之类”と“一类”の前の多项式“X”の語彙類別に関しては、通常、そのうちの各要素が同じかあるいはそれと関わる語彙範疇に属している)(筆者訳)

この点はまさに日本語の「のような」と対応し、“之类”と“一类”はカテゴリーのマーカールとしての機能を持っているといえる。また、黄(2008)を含め、列挙助詞に関する先行研究は、列挙助詞が対象を全て列挙しているわけではないとしている点で一致している。多くの実例を見る限り、たしかに文中で形式化した“X”以外に、同じカテゴリーに属す他の要素を挙げることは可能であるように考えられる。しかし、それは必ずしも他の要素を列挙しきれていないということ表すわけではないように考えられる。この点については、より踏み込んだ議論をしていく必要があるだろう。

2.2 这样的/那样的

中日対訳コーパスで「AやBのよう」の「のよう」が“那样(么)/这样(么)/一样”に訳されているのは以下の8例である。

- (22) a 金閣寺や銀閣寺のように拝観客こそないけれど、衣笠山麓では、龍安寺、等持院とならんで、歴史もふるいし、開山は夢窓国師である。
 b 虽然不象金阁寺、银阁寺那样香客盈门，但在衣笠山麓，同龙安寺、等持院不相上下，历史悠久，开山祖师是梦窗国师。

(中日対訳コーパス：金閣寺)

- (23) a サルトルやボーヴォワールのような思想家や作家が哲学の高等教育資格試験を一番で通過したということが話題にのぼるのは、充実したフランスの試験制度を背景にしてはじめて意味を持ちうる席次である。
- b 像萨特、玻包瓦尔那样的思想家作家，他们曾名列哲学的高等教育考试的榜首而成为人们的话题，而这种名次只有在充实的法国考试制度的背景下，才显出它的真实含义。

(中日対訳コーパス：マッテオ・リッチ伝)

- (24) a その漢文を明朝や清朝の人が読むようになることを、ましてや林羅出や新井白石のような日本の学者政治家までが読むようになることを…。
- b 明、清の文人将阅读这些汉文著作，甚至像林罗山、新井白石那样的日本学者、政治家也将阅读这些著作……。

(中日対訳コーパス：マッテオ・リッチ伝)

- (25) a 彼はその『自伝』の中に、“Artour des impasses mandarines” という章を設けて、梁汝浩、趙秉鈞、周学熙などのシナの大官や嚴復のような学者と会った印象と西園寺公望、渋沢栄一、末松謙澄などの日本の知欧派の指導者と語り合った印象とを比較している。
- b 他在其《自传》中写下这样一章：“Autour des impasses mandarines”，记述了会见中国的高官如梁汝浩、赵秉钧、周学熙以及严复那样的学者时的印象，并比较了与西园寺公望、涩泽荣一、末松谦澄等日本知欧派领导人交谈后的感触：

(中日対訳コーパス：マッテオ・リッチ伝)

- (26) a 明治維新の指導者となった下級武士や、明治の産業界の指導者となった渋沢栄一のように、半農半商の家の子の登場はこのようにして可能になったのである。
- b 这就使担任明治维新领导者的下级武士得以登上政治舞台，并且使得象涩泽荣一那样的人能够由半农半商之家的子弟成为明治时期产业界的领袖。

(中日対訳コーパス：激動の百年史)

- (27) a 同様に、日本の貴族や武士には、西欧の貴族やジェントルマンのように、外国旅行をすることによって、その国の彼らと対応する人々と友好を結んだり、あるいは未知の国へ出かけるという探検の趣味はほとんどみられなかった。
- b 而且，日本的贵族和武士从不象西欧的贵族和绅士们那样到外国去旅行，在国外结交与自己地位相当的名流；他们对于到一无所知的国度去探险也毫无

兴趣。

(中日対訳コーパス：適応の条件)

- (28) a これらは、床や水槽や天窓のように硬くて安定した《物》だと僕は考え小さい震えのような感動が躰を走るのを感じた。
- b 他们和地板、水池以及天棚一样的坚硬安定的“物”。我这样想着，就感到体内有微微震颤的感动在涌流。

(中日対訳コーパス：死者の奢り)

- (29) a しかし南京や南昌のような大きな都会では徒歩で全部を訪問するというのは到底できそうにないことだったので。
- b 但是，在像南京或南昌这么大的城市，我们是不可能步行去回访那么多人的。

(中日対訳コーパス：マッテオ・リッチ伝)

徐(2012)は、“这样的”“那样的”も列挙助詞と見なし、張(2001)が12種とした列挙助詞を14種に改めている。

“这样的”について、徐(2012)の内容をまとめると、以下の表5のようになる。

表5 “这样的”

	組み合わせ対象と方法				X + 助詞機能		語彙意味	文体
特徴 類別	名詞/ 動形詞	普名/ 固名	1つ/ 2つ以上	粘着/ 自由	主語/ 目的語	連体/ 連用	全部/ 一部	書語/ 口語
这样的	+/+	+/+	+/+	+/-	-/-	+/-	-/+	+/-

2.3 等/等等

中日対訳コーパスで「AやBのよう」の「のよう」が“等”に訳されているのは以下の3例である。

- (30) a 士、農、工、商という身分的秩序が、文学や言葉の使用法のような細かいところにいたるまで、日本人の生活を規制し、儒教道徳が社会関係における上下尊卑、服従・奉仕の關係の基礎となっていた。
- b 士(武士)、农、工、商这一身份等级制度，一直束缚着日本人的生活，甚至文字和语言的用法等细节都有严格的区别，儒教道德在社会关系中成了上下尊卑，服从和效忠等关系的基础。

(中日対訳コーパス：激動の百年史)

(31) a たゆたう水の反映によって堅固な形態の縛めを解かれ、かかるときの金閣は、永久に揺れうごいている風や水や焰のような材料で築かれたものかと思えた。

b 正由于摇动的水影的反映，它才从牢固束缚的形态中解放出来。这时候的金阁就好像是由永无定迹的风、水、火焰等材料铸成的。

(中日対訳コーパス：金閣寺)

(32) a 特に社会科学というものがアメリカやイギリスのようにさかんになっていない日本では、社会科学的思考法というものがほとんど定着していない。

b 特别是在社会科学的普及程度远不如美英等国的日本，能够用社会科学的方法去看待问题的人少得可怜。

(中日対訳コーパス：適応の条件)

張(2001)において、“等”は複数の名詞の後にも、1つの名詞の後にも置くことができるのに対し、“等等”は複数の名詞の後ろにしか置けないと述べられている。この点については本稿筆者も同意するが、以下の記述は検討を要するものと思われる。張(2001)は、固有名詞の後ろに“等”は置けるのに対し、“等等”は置けないと述べ、以下の例文を挙げている。

(33) a 不消说，仇琛手下有的早已是只要行贿，便无不给便的人物，柳湘莲等（*等等）借此与秦可信内外勾结，非止一日。

(張2001：35)

b 言うまでもなく、仇琛の部下には、もう贈賄さえすれば何でもやってくれる人ばかりになっている。柳湘蓮などはこれで秦可信と手を組んでいる。それは昨日今日のことでない。

(日本語訳のbは筆者によるもの)

この例にある“柳湘蓮”は確かに固有名詞であるが、ここでは普通名詞なのか固有名詞なのかという違いは明らかに文の文法性に関与しておらず、取り上げられる名詞が1つなのか複数なのかが文の成立の可否に左右しているように思われる。この例文は名詞が1つであるため、“等等”が使えないのである。

一方、日本語の場合、「など」は単独の名詞の後ろに置かれるが、「などなど」は複数の名詞の後ろに置かれる。

また、“等”が粘着的で、列挙対象の後に置かれることしかできず、単独では使えないのに対し、“等等”は自由で、単独でも使用することが可能であると述べている。

(34) a 比如内分泌的不均衡，循环系统的不顺畅，传到系统的暂时阻隔和紊乱，等

等。

(张2001: 36)

- b 例えば内部分泌の不均衡、循環器官の不調、伝達系統一時的な阻害と混乱、などなど。

(日本語訳のbは筆者によるもの)

一方、日本語の場合、「など」の前に「…」という記号がつけられるが、「のような」の前に「…」はつけない。即ち、「など」は接続に関して自由であり、「のような」は粘着的であるといえる。

(35) a わが家のベランダにはレンギョウ、ザクロ、…などが植えてあり、花が絶えず咲いている。

- b ??わが家のベランダにはレンギョウ、ザクロ、…のようなが植えてあり、花が絶えず咲いている。

(「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言)

ここまで見てきた先行研究の成果は、表6のようにまとめることができる。また、中国語の“等、等等”“之类、一类”“这样的、那样的”に関しては、名詞の後に続くという点は共通しているが、その機能には相違が見られる。より厳密に列挙助詞の機能を見ることによって、日本語と中国語の対応関係を体系的に整理することが可能となる。

表6 中国語の列挙助詞の比較

	主語、目的語になるかどうか	2つ重ねるかどうか	名詞が1つでよいかどうか	前に「、」が挿入可能かどうか
等	○	○	○	×
等等	○	○	×	○
之类	○	×	○	×
一类	×	×	○	×
这样的/那样的	×	×	○	×

3 中国語の“一类/之类”“这样的/那样的”と「のような」の対照研究

中国語の列挙助詞と対応する日本語は「のような」である。中国語には、“一类”と“之类”をはじめとする列挙助詞があり、それらは中国語学研究であまり重視されてこなかった。さらに、日本語と中国語の列挙助詞の対照研究は管見の限り見られない。本節では、中国語の先行研究の知見をもとに、日本語と中国語の対照研究を行う。中国語の列挙助詞についてまとめた表6をもとに日本語の「のような」の用法を整理すると、表7のようになる。

表7 “之类、一类” “这样的” と「のような」

	主語、目的語になるかどうか	2つ重ねるかどうか	名詞が1つでよいかどうか	前に「、」が挿入可能かどうか
之类	○	×	○	×
一类	×	×	○	×
这样的/那样的	×	×	○	×
のような	×	×	○	×

前述したように、“之类”は主語、目的語、連体修飾語として機能するが、“一类”は連体修飾語としてしか用いることができない。一方、日本語の「のような」も連体修飾語としてしか用いられないため、“之类”より“一类”のほうがより「のような」と近い性質を持っていることが分かる。ただし、日本語の「たぐい」は、“之类”と同じく、主語、目的語、連体修飾語として機能することができる。このような点からも、日中対照研究を行う場合には、より広範な言語形式を観察する必要があることが窺えるが、「のたぐい」などの表現の詳細な分析については、今後の課題としたい。

一見、表7から、“一类”と“这样的”が同じように振る舞うように思われるが、厳密には、人を修飾する際に“这样的/那样的”を使う傾向が強くなるという違いが観察される。なぜならば、“一类/之类”が人を修飾する場合にはマイナス評価的なニュアンスが生じ、日本語の「なんか」に相当する意味合いが読み取れるためである。

コーパスを使い、“这样的人”と“之类的人”をそれぞれ入力して、検索した結果、“这样的人”が120例があったのに対し、“之类的人”は僅か1例しかなかった。この1例も、軽蔑の意味合いで使われている。

- (36) a 从他的笑，我可以判断屋里还有什么人，不是那些像朱科长之类的人物就是女客人。
 b 彼の笑い声から私は部屋のお客がどんな人だか推測できた、あの朱課長の類の人物か、さもなければ女の客だ。

(中日対訳コーパス：天云山传奇)

また、例文(37)のように、中国語の“之类的”は述語になれるが、日本語の「のような」は述語になることができない。

- (37) a 史叔叔就是史福岗，他是欧洲人，他拚命说中国话，拚命说北京话，拚命把一些词儿“儿化”和说“您哪”“真棒”“悬啦”之类的。
 b 史叔父さまは史福崗のことで、ヨーロッパ人だ。彼は熱心に中国語、それも北京弁を話そうとした。単語の後にさかんに「er」の音をつけたり、「您哪」、「真棒」、「悬啦」といった類の言葉を連発する。

(中日対訳コーパス：活動変人形)

また、第2節で、“等”が“一类、之类”、“这样的、那样的”と共にできると述べたが、“等等”についてはその振る舞いが明らかにされていなかった。そこで、“等等”の用例がどうなっているのかをコーパスで検索したところ、“等”と同じく、“一类、之类”、“这样的、那样的”と共にできることが分かった。

- (38) a 相比较于那些秘书、写作等等之类的“昨日黄花”课程来，“国际商务”专业应算是佼佼者了。

(CCLコーパス)

- b そのような秘書、作文などなどのような「昨日黄花の(古臭い)」課程と比べたら、「国際ビジネス」という専門は相当良いものといえる。

(日本語訳のbは筆者によるもの)

- (39) a 他的“迷惘”好象是在另外一些重大方面，诸如社会理想、人类命运、世界前途等等一类问题。

(CCLコーパス)

- b 彼の「困惑」は別の重大な方面にあるようである。例えば社会の理想、人類の運命、世界の前途などなどのような問題である。

(日本語訳のbは筆者によるもの)

- (40) a 只要在电视舞台上一出场，您就会听到著名表演艺术家，艺术大师，名人，名嘴，明星，笑星，影星等等这样的称呼！

(CCLコーパス)

- b あなたもテレビの舞台に立てば、有名な演技者、芸術家、有名人、評論家、スター、お笑い芸人、俳優などなどのような呼び名が聞こえてきます！

(日本語訳のbは筆者によるもの)

- (41) a 我们为何不能下功夫造出上追唐宋水平的七弦琴，如像“九霄环佩”、“鹤鸣秋月”、“天风海涛”等等那样的？

(CCLコーパス)

- b どうして私たちは唐宋時代の水準を超える七弦琴を工夫して作らないのか、例えば、“九霄环佩”、“鹤鸣秋月”、“天风海涛”などなどのような？

(日本語訳のbは筆者によるもの)

一方、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言で検索したところ、日本語の「な

どのよう」は380例あったのに対し、「などなどのよう」は1例も見受けられなかった。このように、“等”“等等”と“一类、之類”、“这样的、那样的”、“など”と「のよう」は共起できるが、「などなど」と「のよう」は共起できないことが分かる。

5 おわりに

日本語においては、名詞と名詞を並列する際にカテゴリー性を前提とする「や」と、カテゴリー性を前提としない「と」とがあり、名詞の後に置かれる形式でも、「のよう」はカテゴリー性を表示する。それに対して、中国語の“和”はカテゴリー性と直接的には関係がなく、列挙助詞の中の“之類”などのタイプが、カテゴリー性を表示する機能を持つ。

本稿では、中国語のカテゴリー性を表示する形式に、どのような広がりがあるのかということ、改めて取り上げた。中国語の“和…等”は、「や」に見られるカテゴリー性と同等のものを示す形式ではない。中国語においてカテゴリー性を前提としている表現は、“之類”などの列挙助詞であるといえる。“之類”に対応する日本語として、「…のよう」 という表現が挙げられる。「…のよう」は、そもそも例示の機能を持っているため、「や」と同じような説明が可能である。つまり、「や」と「のよう」というのは、いくつかのものをカテゴリーの中に導入するという点で、共通の機能を有しているといえる。カテゴリー性の観点から日中の並列表現を分析することにより、従来行われていなかった中国語の列挙助詞の記述、および並列表現の日中対照研究が可能となる。

本稿では、日本語におけるカテゴリー性が中国語においてどのように実現されているのかという問題意識から、中国語の列挙助詞に注目した。さらに、列挙助詞がどのような品詞を列挙するのか、並列する名詞が1つでよいのか否か、「、」が挿入可能か否か、主語や目的語になれるか否か、といった観点から中国語の並列表現を再整理し、同様の観点から日本語を分析した。日本語の「のよう」と中国語の列挙助詞を比較して検討した結果、「のよう」と“一类”“这样的”が近い用法を持っていることが分かった。

以上の分析により、「など」のグループと「のよう」のグループは、異なった性質を持っていることが分かる。この2つのグループに違いが生じる要因について、今後の課題とする。

参考文献

- 安藤淑子 (1995) 「日本語の名詞及び動詞における並立表現の構造—開いた系と閉じた系—」『広島大学日本語教育学科紀要』5 pp.11-13 広島大学教育学部日本語教育学科
鄭亨奎 (1989) 「接続表現の日中対照研究—語の並列を中心に—」『教育学研究紀要』35 pp.136-141 中四国教育学会
寺村秀夫 (1984) 「並列的接続とその影の統括命題—モ、シ、シカモの場合—」『日本語学』3-8 pp.67-74 明治書院
光信仁美 (2007) 「「N1 のようなN2」の例示用法」『立正大学国語国文』46 pp.1-11 立正大学国語国文

学会

- 黄俐娜 (2008) 〈列举助词“之类”探析〉华中科技大学硕士论文
徐敏 (2012) 〈现代汉语列举类词语考察〉上海师范大学硕士论文
张谊生 (2001) 〈现代汉语列举助词探微〉《语言学习与研究》第6期 pp.35-44
赵博源 (1996) 〈汉日语连词的用法及其比较〉《日语知识》日语知识杂志社 pp.29-33

コーパスデータ

- 中日対訳コーパス (2003) 北京日本語学研究センター (第1版)
CCLコーパス (2003) 北京大学中国语言学研究中心
現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) (通常版)

辞書類

- 伊地知善継 (2002) 『白水社中国語辞典』白水社

(ヒョウ ゲン 筑波大学大学院 博士課程 人文社会科学研究科)